

一橋大学附属図書館所蔵福田徳三関係資料について

平成20年3月28日

杉 岳志

(附属図書館 専門助手)

1. 伝来

- ・ 本資料を図書館が収蔵するに至った経緯を示す一次資料は残されていないが、1982（昭和57）年12月17日の山田雄三先生談話によれば、1952（昭和27）年9月頃に杉本栄一先生の研究室から移管されたらしい。
以下、図書館員のメモより抜粋。

此の手稿は福田先生歿後（昭和5年5月8日）残された図書等の整理された際出て来たもので、整理に当たられたのは井藤半弥、杉本栄一、山田雄三の諸先生ですが、図書は山田先生が担当され目録（4冊本として受入れられています）を作成し、後に大阪市立大学に売却されました。

手稿は杉本先生が受け持たれ、永らく研究室に保管されて居たそうですが、昭和27年9月急逝された後、図書館に移されたのではないかとのお話でした¹。

2. 分量

- ・ 現在は、資料の形態に合わせた保存容器44箱・袋に計260点が収められている。
- ・ 2004（平成16）年2月の保存容器作成以前は、木箱（42cm×79cm×32cm）2箱に16包が収められていた²。

3. 分類

- ・ 附属図書館所蔵福田徳三関係資料は判明している限り、以下の5グループから成る。
①第1～14包：1949（昭和16）年2月以前に成立

¹ 砂川淑子書誌係長（当時）によるメモ。

² 金沢幾子「一橋大学附属図書館の貴重史料管理―福田徳三関係史料を一例として―」（2000年史料管理学研修会研修レポート）、3頁。木箱に収められた時期ははっきりしないが、金沢氏は1991年の時点で木箱に納められていたと記している（同5頁）。1989年11月作成・1990年6月追補「図書館所蔵非図書資料リスト」ではダンボール2箱となっているので、1989～1991の間に木箱に移し替えられたのだろうか。

②第1次追加：「第15包」、1949（昭和24）年2月28日追加

③第2次追加：「新雑」（命名者不明）、1981年5月頃追加？³

第1～14包から分離して成立した可能性もある

④第3次追加：山田雄三先生より1988年11月に寄贈

⑤第4次追加：大塚文庫より図書館員が移す（大塚文庫には写）

- ・ 第1～14包はおそらく1941年8月3日のNew York Timesに包まれ、それぞれに番号と標題が記されていた（下表および資料1・2）。分類が1941年から追1が加わった1949年の間になされたのか、それ以前からなされていたのかは不明。

可能性としては、

①福田自身が生前に分類、それがそのまま維持されて1941年8月～1949年2月の間に新聞で包まれた

②福田死後の整理時に井藤・杉本先生のいずれか（あるいは両名）が分類し、それが維持されて1941年8月～1949年2月の間に新聞で包まれた

③1941年8月～1949年2月の間に杉本先生か別の誰かが分類し、新聞で包まれた

の3パターンが考えられる。

〈現在残っている包紙〉

包紙Aに記された番号・名	包紙A	包紙B（オリジナルの包紙）
1	読売新聞（1981.5.21）	
2	クラフト紙	The New York Times （1941.8.3）
3	クラフト紙	
4	クラフト紙	
5	読売新聞（1981.5.19）	The New York Times （1941.8.3）
6		[The New York Times]
7		The New York Times

³ この包は1981年5月12日の読売新聞に包まれていたので、単純に考えればその頃には成立していたことになるが、それより下った時期に1981年の新聞を使用した可能性もある。1982年9月29日付宮島英昭氏メモ（当時東京大学院生、現早稲田大学教授）には「2梱、15包」とあり、1989年11月作成・1990年6月追補「図書館所蔵非図書資料リスト」にも第15包までしか記されていない。一方1982年12月18日の山田先生書簡には「包16?」と記されているが、「包の番号で?のあるのは記憶に自信のないもの」との注記がされており、この時点で「新雑」の包が成立していた確証とはならない。

		(1941.8.3)
8	クラフト紙	
9	クラフト紙・ 読売新聞 (1981.5.18 夕刊)	
10	クラフト紙	The New York Times (1941.8.3)
11	読売新聞 (1981.5.19)	The New York Times (1941.8.3)
12	クラフト紙 (筋入、防水)	[The New York Times]
13		The New York Times (1941.8.3)
雑 (包紙 B は 14)	クラフト紙	The New York Times (1941.8.3)
15	クラフト紙	
新雑	クラフト紙・ 読売新聞 (1981.5.21)	

- ・ 同一人物の筆跡と思われる一覧表あり (資料 2)。一覧表の原本は目下所在不明だが、「国際経済調査所原稿紙」に記されている。国際経済調査所の発行した『国際経済研究』に 1940～41 年に寄稿している福田門下は山田雄三・中山伊知郎両先生で、山田先生と共に整理を担当したとされる井藤・杉本両先生は寄稿していない。
- ・ 現在もこの包の分類を踏襲している。ただし、伝来をはっきりさせるため、包 15 は追 1、新雑は追 2 とした。

4. 整理状況

- ・ 資料は長らく古典資料センターに保管されてきたが、2003～04 年に整理され、リストと保存容器が作成された。現在は附属図書館貴重資料室に収蔵。
- ・ 資料番号は原秩序尊重の原則に従って付与。一部に番号の乱れがみられたため、杉が修正し「整理番号」とした。整理当時の番号は「資料請求番号」として残っている。

5. 資料の特徴

- 個々の資料の内容は今後の課題。これまでの作業で明らかとなった 2 点を記す。
- ・ 『経済学全集』以前の原稿はほとんど残っていない。

福田は『経済学全集』中の『経済学原理－流通篇』の稿本以外の原稿は一切焼き捨てるよう公言していた（高島佐一郎「福田先生の先生と短歌」『如水会々報』79、1930年）。

⇒『全集』以前の原稿は福田が処分したと考えられる⁴。

- ・ 包の標題と中身が一致しないのは、『厚生経済研究』が圧倒的に多い（資料3）。しかし、包8-3（通し番号88～108）・包8-4（同109～125）・包8-5（同126～134）、包9-1（同135～152）、包9-2（同153～167）の塊には、それぞれ「『厚生経済研究』直前」と福田が赤鉛筆で記した紙片がある。
⇒包8の後半と包9は『厚生経済研究』の一部として福田が用意していたもので、刊行に際して省いたか、後の刊行を考えながらもそれを果たせないまま死去したのではないか。

6. デジタル化の状況

(1) 著作

- ・ 『経済学全集』『流通経済講話』『唯物史観経済史出立点の再吟味』『厚生経済研究』はすべてデジタル化済み。現在機関リポジトリ HERMES-IR での公開を準備中。

(2) 福田徳三関係資料

- ・ 包7-1-7まで（約6000コマ）撮影済み。一部は試験的に HERMES-IR で公開されている（<http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/da/handle/123456789/5488>、資料4）。
- ・ 残る10000コマ弱（約3,300,000円）を来年度すべて撮影することは予算上不可能なため、来年度5500コマ前後、再来年度4500コマ前後撮影予定。

⁴ 『全集』流通篇の校正刷だけが包6に残っており（通し番号63）、この証言が資料から裏付けられる。